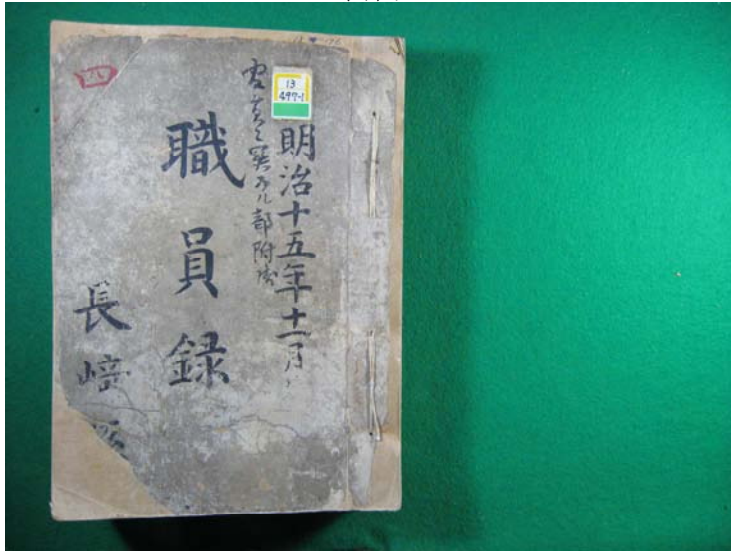
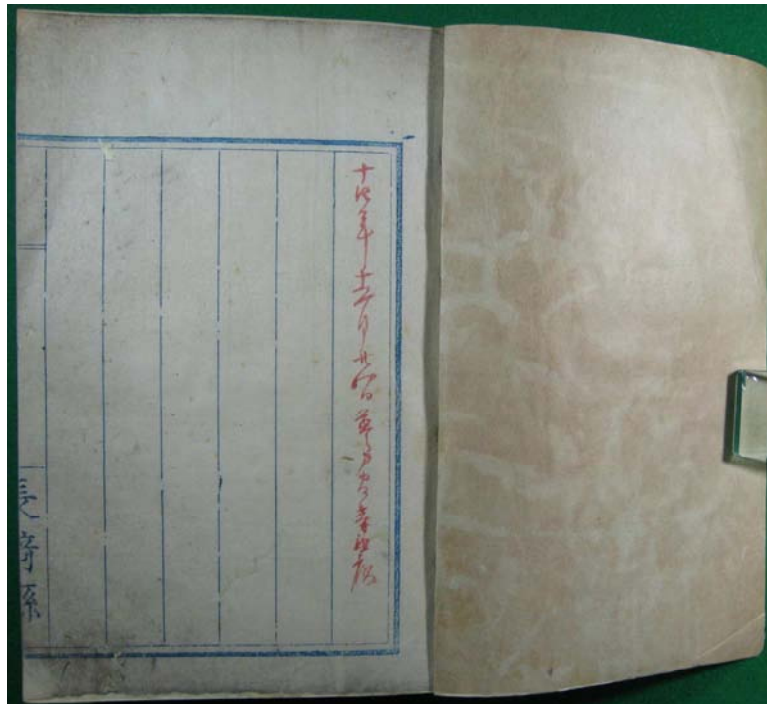


明治十五年十一月 職員録 長崎県

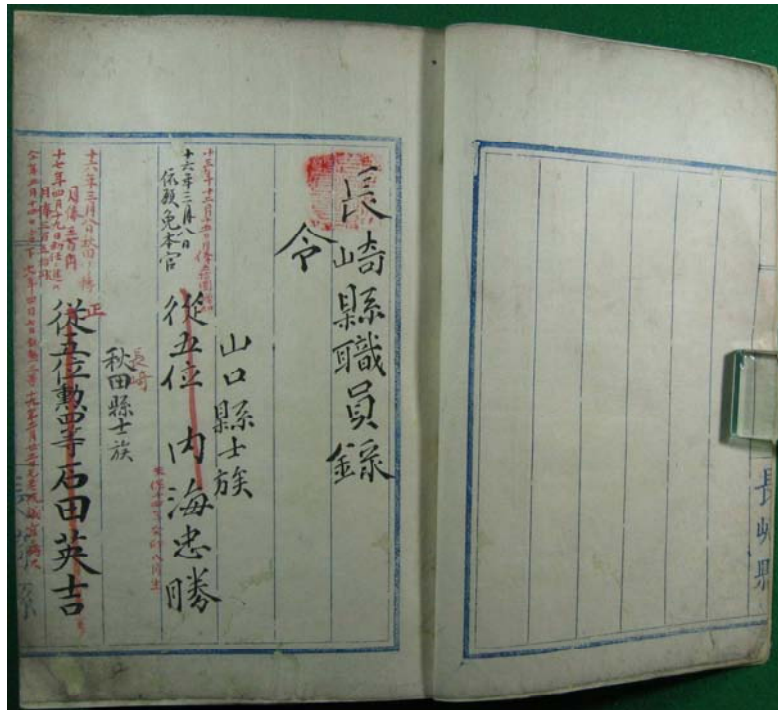
表紙



1

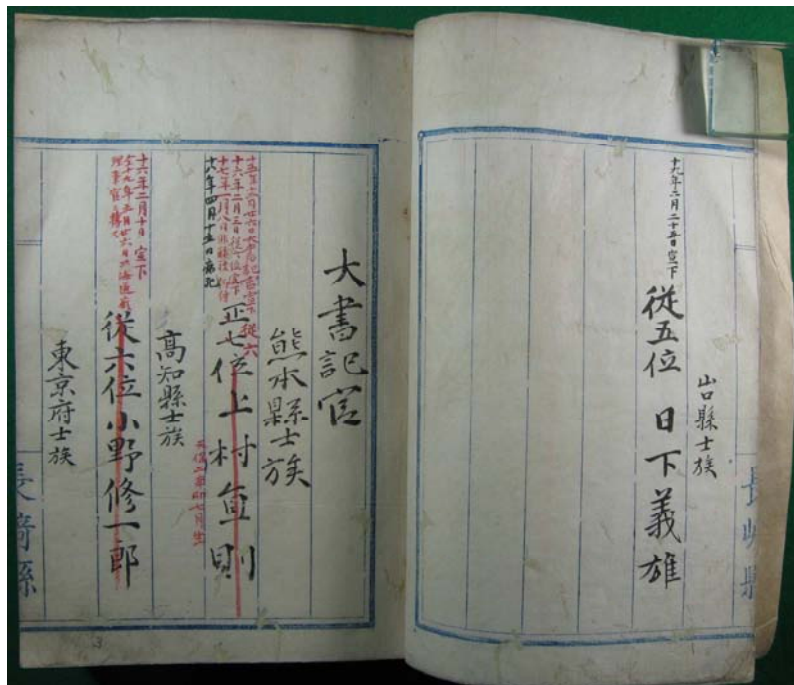


2(令)



内海忠勝は6代目、石田栄吉7代目の知事に当たります。  
 内海は旧萩藩士、明治10(1877)年「長崎県権令」として赴任し、翌年改称されて「長崎県令」となります。  
 石田は土佐(父は医者)出身。振遠隊の指揮・明治2(1869)年長崎県少参事として赴任してきた経験もあり、長崎にゆかりの深い人物です。(前職は秋田県令)

3(令・大書記官)



日下義雄は、明治19(1886)年2月25日「県令」に任ぜられ、同年7月19日改称されて「県知事」となります。旧会津藩士ですが、井上馨の書生から身を起こしたこともあり、本籍を山口県としています。(県知事就任後は、本籍を長崎県に改めています。)